

# ちがってるから おもしろい

所属	愛知県大府市立共長小学校	実践者	浜島 直美 (L)
対象	小学6年生 (36名)	時間数	8時間
場所	6年3組 教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界には、多様な人種や文化があることを実感できる。</li> <li>・日本とラオスの生活を比べて、それぞれの良さを認めることができる。</li> <li>・文化や生活の違いを否定せず、肯定的に受け止め、分かり合おうという気持ちをもつことができる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1-2	<b>ラオスってどんな国？</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教師海外研修で撮ったラオスの写真を見る。</li> <li>② ラオスクイズに挑戦する。</li> <li>③ 日本との違いを見つける。(学校・食事・遊び等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしたちの地球と未来</li> <li>・パワーポイント</li> </ul>
	3-4	<b>読めるかな？</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 世界で使われている文字を知る。</li> <li>② ラオスの文字を知る。 ・ラオスの文字で書かれた自分の名札をさがす。</li> <li>③ ラオスの文字の秘密(共通点)を見つける。</li> <li>④ ラオス探検隊(クイズ) ・どちらのジュースが飲みたいですか？ ・暗号を解け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオス語で書いた名札 36名分</li> <li>・ラオス語(毒・薬)</li> <li>・オレンジジュース2本</li> <li>・問題用紙</li> </ul>
	5-6	<b>世界ふしぎ発見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 世界の不思議をさがす。</li> <li>② 世界の不思議を付箋に書き、世界地図に貼る。</li> <li>③ 違いを共有し合い、各国の面白さに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁掛け用世界地図</li> <li>・付箋</li> </ul>
	7	<b>あたりまえの秘密</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>① あたりまえだと思ふことを発表する。 ・模造紙にまとめる。</li> <li>② 自分のあたりまえは世界に通じるのかを考える。</li> <li>③ 子どもの権利条約について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポップコーン方式</li> <li>・模造紙</li> <li>・詩「そのこ」</li> <li>・子どもの権利条約</li> </ul>
8	<b>違っているからおもしろい！</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 自国と他国、私とあなたを比較する。 ・クイズ「私の当たり前＝あなたの当たり前？」 ・世界中が同じだったら……。</li> <li>② それぞれの良さを認める大切さを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対比表</li> </ul>	
成果	<p>「ラオスってどこ？」→「ラオスは日本とは違う面白さがある」→「世界には不思議なことがいっぱいある」→「考え方が違うから面白い」このように児童の考え方が変わった。人の考え方は色々あり、否定せずに聞くと、自分にプラスになることがたくさんあることに気付くことができたのではないかと思う。</p>		
課題	<p>クイズやゲームなど楽しみながら学習することができたが、深めるためには、まだまだ時間が必要である。学んだことから、自分の興味・関心を見つけ、調べ学習を通して深めていけるように考えている。</p>		
備考			

## [ 授業実践の詳細 ]

### 1-2 時限目「ラオスってどんな国？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① 教師海外研修で撮ったラオスの写真を見る。
  - 小学校や子どもセンターの様子
  - 市場の様子
- ② ラオス〇×クイズ
  - 学校や遊びに関係するクイズ
  - 文化に関するクイズ
- ③ 日本との違いを見つけよう。
  - ・ ラオスの小学生は、制服を着ている。
  - ・ ラオスの学校は給食が無く、お弁当を持って行っている。
  - ・ 白や茶色の卵だけでなく、ピンクの卵を売っている。
  - ・ 日本には無い魚・野菜・果物が売られている。
  - ・ 子どもが働いている。 等

#### この時限のねらい

- 写真を通してラオスに興味をもつ。
- 日本との違いを見つけ、様々な文化や考え方があることを知る。



< 市場で売られている果物 >



< 白・茶色・ピンクの卵 >

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇「ラオスってどこにあるの?」「ラオスは先生が訪問した国」というように、児童にとっては、ラオスは存在感の薄い国だった。しかし、パワーポイントやクイズを通して日本とラオスの違いに気づき、「ラオスは日本とは違う面白さがある国」という考え方に変わった。自分達の生活と比較して、その違いに驚いたり、おもしろいと感じたりする子が多かった。また、家族を大切にしたり、学校にいく制度がある等の共通点があることに気付くこともできた。

#### 3 使用した教材

<教材1> (公財) 愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来』ラオス編

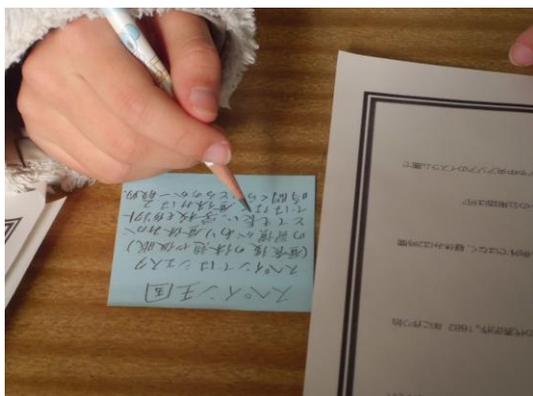
<教材2> 海外研修で撮影したラオスの写真 (パワーポイント)



## 5-6 時限目「世界ふしぎ発見」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 世界の不思議を資料の中からさがす。
  - ・音楽の授業がない（サウジアラビア）
  - ・午前と午後で生徒が入れ替わる（クロアチア）
  - ・学校におやつを持っていく（オランダ）
  - ・コウモリを食べる（バヌアツ）
  - ・礼儀作法の授業がある（ブータン）
  - ・コアラはユーカリしかたべない（オーストラリア） 等
- ② 世界の不思議をクイズ形式にして、付箋に書き、世界地図に貼る。
- ③ 違いを共有しあい、各国の面白さに気付く



<クイズを付箋に書く活動>

### この時限のねらい

- 各国の生活や文化と自分達の暮らしを比べ、他国の文化を尊重する気持ちを養う。
- 世界の国々の多様性に触れ、違いを楽しみながら、他国に関心をもつ。



<付箋を世界地図に貼る活動>



<世界地図に貼られたクイズ>

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 資料の中から国を選び、興味のあるクイズをさがしだした。「国名が面白いから」、「行ってみたい国だから」、「クイズの内容が面白いから」など理由は様々だった。一人一問クイズを作り、クイズ大会をした。クイズにすることにより、全体で共有でき、楽しく学ぶことができた。

### 3 使用した教材

<教材4> 世界地図

<教材5> (公財)愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来』(サウジアラビア編、クロアチア編、オランダ編、バヌアツ編、ブータン編、オーストラリア編)

### 1 子どもの活動の流れ

- ① あなたの「あたりまえ」はどんなことかを考える。
  - 模造紙にまとめてみよう。
    - ・ 生きている
    - ・ 食べる
    - ・ 水が出る
    - 等
- ② 「あたりまえ」は世界に通じるのかを考える。
  - ・ 学校に行けない子がいる
  - ・ 働いている子がいる
  - ・ 家族がいない子がいる
  - 等
- ③ 子どもの権利条約について知る。
  - ・ 生きる権利
  - ・ 育つ権利
  - ・ 守られる権利
  - ・ 参加する権利
  - 谷川俊太郎の詩「そのこ」を聞く。

### この時限のねらい

- 自分にとってのあたりまえと、世界のあたりまえは違うことに気付く。
- 子どもの権利条約について知り、その条約によって自分達は守られていることに気付く。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 自分にとって当たり前だと思うことをポップコーン方式であげていった。学校に行くこと、食べること、遊ぶことなどが当たり前のように出てきた。世界の子どもの様子をまとめたパワーポイントを見せると、児童の表情が変わった。自分たちの当たり前が世界では通用しないことに気付くことができた。
- ◇ 授業中に児童の考えたアンケート「大人たちのあたりまえ」に対する保護者の答えには、「食べる」「水が出る」「学校に行く」などの子どもと共通したものがあり、改めて「あたりまえ」について考えるよい機会となった。
- ◇ 世界には、子どもの幸せを守るための「子どもの権利条約」があり、世界中の子どもは皆この条約によって守られなくてはいけない。しかし、守られていない子どもたちも世界にはたくさんいることを知らせた。また、「あたりまえ」のうらがわには、秘密がかくされていることを知ることができた。また、「あたりまえ」が守られていない国の多くは、開発途上国であることに気付く児童もいた。
- ◇ 谷川俊太郎の詩「そのこ」は、児童にとって場面を想像しやすい詩だったようで、自分と「このこ」を比較して考え、「ずっと働くのかな。家族はいないのかな。」「勉強したいのにできないなんてかわいそう。」などの感想を言うことができた。

あたりまえ	日本	世界	子どもの権利条約
1 生きている	○	○	6条 27条
2 食べる	○	○	27条
3 水が出る	○	○	27条
4 学校に行く	○	○	28条
5 病気をなかな	○	×	24条 25条
6 安全守られる	○	×	2条 11条 15条 19条 32条 33条 35条
7 住む家がある	○	×	20条 37条 38条 39条
8 友だちがあふぶ	○	×	31条
9 家族がいる	○	×	8条 9条 10条
10 感情がある	○	×	12条 13条 14条

<あたりまえベスト10>

### 3 使用した教材

- <教材6> (公財)愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来』
- <教材7> 子どもの権利条約 (日本ユニセフ協会)
- <教材8> 世界の子どもの様子をまとめたもの
- <教材9> 詩「そのこ」谷川俊太郎

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 自国と他国、私とあなたを比較する。
  - クイズ「私の当たり前＝あなたの当たり前？」
  - 世界中が同じだったら……。
- ② それぞれの良さを認める大切さを知る。
  - 対比表を作る。
  - 違いを受け入れることの大切さについて、話し合う。

#### この時限のねらい

- それぞれの国には、いいところもあれば、課題もあるということを知る。
- 違いを否定するのではなく、受け入れる大切さを知る。

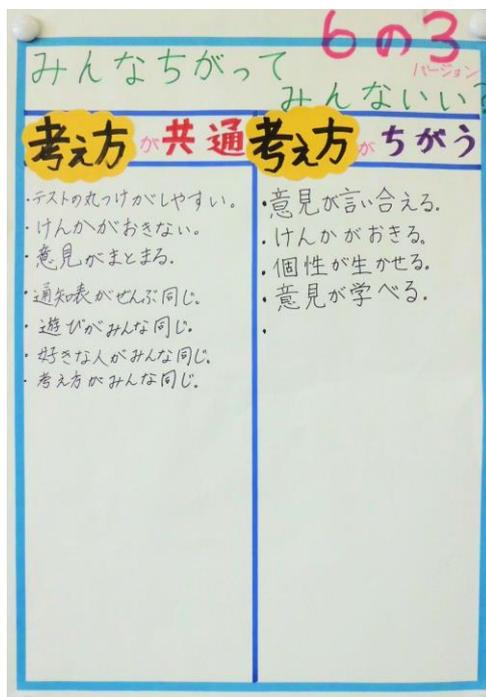
### 2 子どもの活動の成果・反応

◇ クイズ「私の当たり前＝あなたの当たり前？」では「目玉焼きにソースかけるの？醤油じゃないの？」「塩だけだよ。卵の味が消えちゃうでしょ」など、36人の意見が分かれ、目玉焼き対決が始まった。自分の意見を通そうとする児童がたくさんいるなかで「そんな食べ方があるんだ。今度試してみよう。」と友達の意見を受け入れようとする児童もいた。

◇ 考え方、食べ物、季節、言葉など世界中がみんな同じだったら……対比表を使って意見を出し合った。「戦争は考え方の違いからおきるから、みんな同じ考えだったら戦争が無くなり平和になると思う。」という意見で盛り上がり、「戦争にならなければ平和なのか。」「意見を言い合って良くなることだってあると思う。」「海外旅行の楽しみがなくなる。」など、多くの意見が出てきた。「違い」を排除や対立の対象とするのではなく、「多様であること」は豊かな証拠として受け止められることが平和な世界をつくる第一歩につながることを伝えた。



<対比表を書く児童>



<児童の意見をまとめた対比表>

### 3 使用した教材

<教材 10> (公財) 愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来』

## ■ 全体を通して

私は、教師海外研修に参加して、途上国の現状を見て学ぶ中、青年海外協力隊が、現地の人と寄り添い、一緒に考えながら、相手国にとって一番良い協力方法を探し出そうと模索している姿を見た。彼らは、言葉の壁と文化の違いに戸惑い、苦しみながらも、あきらめず努力していた。自分の考えや文化を押し通すのでは、成功しない。相手から学ぶ姿勢、自分の出来る可能性、相手国の切なる願いが一つになったとき、成功につながる道ができるのだと感じた。彼らの輝く笑顔の裏には、測り知れない多くの努力と汗がかかっているに違いない。この姿は、私が今まで行ってきた国際理解教育の在り方を見直すきっかけとなった。

児童が世界を受け入れるには、まず違いを認めることが大切である。今回のプロジェクトの中に児童に一番印象を与えたことは、自分たちの当たり前が世界では通用しないということだった。当たり前が通用しない途上国に対し、「かわいそう」という考え方の児童が多い。幸せの価値観は、人それぞれ違うということ、「かわいそう」という目線ではなく、同等の立場に立った目線で世界が見られるような人になってほしい。そして違いを否定せず、受け入れることが出来るようになってほしい。次世代の人が笑顔で安心して暮らせる環境を作る事が大切であることと、すべての人が、他者について考える心をもたなければ、世界は変わらないということをしかりと理解してほしい。研修に参加して、私が感じた様々な想いを、児童に少しでも多く伝えたいという強い気持ちで、プロジェクトに取り組んだ。私が学んだことを次の世代を担う児童に伝えていくことにより、国際協力の真の意義を知り、実際に行動に移す大切さに気付くことを、心より願っている。



<写真1>市場で働く少女



<写真2>トンカム小学校の児童



<写真3>児童が考えたキャラクター・ワッピー



<写真4>ワッピーを描く児童